

千葉大学とHasanuddin大学との協定

千葉大学医学部附属病院小児科 中野 泰至

千葉大学小児科とインドネシアのマカッサルにあるHasanuddin大学小児科との協定に基づき、両大学の医師交流が進められています。昨年度は4人の医師と2人の看護師が千葉大学医学部附属病院に研修に訪れ、両国の医療技術と知識の共有が図られました。

今年の5月には、この協定の一環としてマカッサルで行われたシンポジウムにて、私が食物アレルギーに関する講演を行いました。このシンポジウムでは、小児科研修医のカンファレンスや医学部の講義にも参加し、双方の交流をより深めました。

インドネシア訪問時には、医学部長及び国際担当部長と面会し、さらなる協定を結ぶことになりました。この8月には、まず5人のインドネシアの医学生を小児科で受け入れ、実りある研修が行われました。来年度以降は、他の科への受け入れも予定しており、全体的な学術交流の範囲が広がることを期待されます。

インドネシアでの講義では、学生たちの非常に高い学習意欲と町全体から溢れるエネルギーを感じることができました。このような積極的な姿勢は、医学部の講義にも反映されており、将来の医療の発展が期待されます。

来年度には、新しい大学院生が千葉大学に来る予定であり、ますます両国間の医療交流が深まることを願っています。この協定を通じて、双方の知識と技術の向上だけでなく、国際的な友情と理解も深められることを期待しています。



◀ 2024年4月16日締結



千葉大学教育学部養護教諭コース

高谷 里依子

養護教諭コースは、学校保健を担当する養護教諭を養成するためのコースです。1学年約25名、4学年で100名ほどの学生が在籍しています。現在、教員は医学出身3名、看護学出身1名、教育学出身1名の計5名で構成されています。養護教諭として求められる知識は多岐にわたります。学生たちは、学校教員として必要な学校及び教育の諸課題に関する必須科目の他、養護教諭として求められる必要な専門科目、すなわち医学、看護学などの基礎知識をもとに、児童・生徒の健全なる学校生活を支える活動の基礎や実践に関する科目、健康教育に関する科目などを学びます。医学の中でも小児科学の知識は必須であり、小児科医局と教育学部のつながりは上原すす子先生が着任された1972年ごろから50年以上続いています。私は、現在、小児科学、小児保健学、衛生公衆衛生学など8科目の系統講義を担当しています。内科、外科、整形外科、皮膚科、眼科、耳鼻科、歯科などの臨床科目の講義は医学部・附属病院の各診療科の先生方が非常勤講師として担当して下さっており非常に質の高い内容となっています。附属病院で臨床実習も本コースの特徴で学生にとっては非常に有意義な勉学の機会となっています。今後とも各先生方にご意見やご指導をいただきながらよりよい養護教諭コースを目指したいと思います。



医局から

医局はこの4名で運営しております。

何かございましたら、お気軽に医局までお問い合わせください♪♪ (電話043-226-2144) よろしく願いいたします。

【左から】松本 秀子、山口 美智子、室岡 孝子、茂呂 美奈子



お知らせ

◆小児科学教室へのサポートのお願い◆

小児科学教室への寄附を募っています。税制上の優遇措置もございますので、小児科学教室の発展のために先生方のお力添えを何卒宜しくお願い申し上げます。



同門会 HP

■ 外来担当表

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
専門	一般/神経/循環器/移行期心疾患	感染症/血液腫瘍/一般/臨床法医	内分泌/新生児/感染症/神経	免疫・アレルギー	一般/循環器/新生児/移行期心疾患/臨床法医
担当医	濱田 洋通	日野 もえ子	大曾根 義輝	中野 泰至	濱田 洋通
	塩濱 直	長澤 耕男	高谷 具純	山本 健	遠藤 真美子
	内田 智子	奥主 朋子	金野 友紀	佐藤 裕範	奥主 健太郎
	阿部 ちひろ	山下 喜晴	平田 優	早田 衣里	國松 将也
	内川 英紀	栗原 恵理佳	藤井 克則 (※第3)	小林 俊幸	江畑 亮太 (※第1・3)
	池原 甫 (※第3)	石和田 稔彦	高谷 里依子 (※第1・3)	山出 史也 (※第2・4)	齋藤 直樹
岩瀬 由紀子 (※第2・4)	齋藤 直樹				

ICU内にPICU (Pediatric ICU) 1床をもうけ運用しております。集中治療が必要な症例をご紹介ください。



千葉大学病院小児科

愛の花 NO HANA*News

5号 2024年10月

ごあいさつ

同門、関連病院の先生方、関係各位いつもお世話になっております。千葉大学病院小児科の活動を報告するニュースレター第5号をお届けします。学内の教育学・法医学・基礎研究室や厚生労働省に人材を送っています。教室から千葉、全国に小児科医育成に携わる者を輩出したいと思っています。是非とも皆様のご支援、ご指導をよろしくお願い致します。

末筆ながら、皆様のご健勝とますますのご活躍を祈念しております。

濱田 洋通 (小児科教授)



2024年度小児病態学スタッフ (2024年5月)

後列左から：平田 優、小出 倫太郎、山下 喜晴、阿部 ちひろ、宮田 和也、今田 寛、小林 俊幸

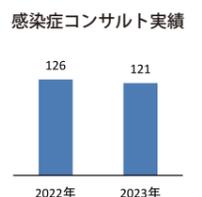
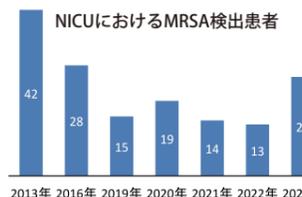
中列左から：遠藤 真美子 (診療講師)、奥主 朋子、宮本 薫子、大曾根 義輝 (周産母子センター長)、濱田 洋通 (科長、教授)、佐藤 裕範、葉 ゆり、栗原 恵理佳

前列左から：山本 健、内田 智子、塩濱 直 (講師)、長澤 耕男 (副医局長)、日野 もえ子 (診療講師)、中野 泰至 (医局長)

2023年 千葉大学病院小児科・NICU診療実績と臨床指標 (抜粋)



入院 (15歳未満) 1,534
 ・NICU259
 ・PICUのべ329日
 外来患者数：
 ・時間内13,590
 ・時間外433
 ・救急搬送数314



小児科学会研究学術賞受賞

塩濱 直

濱田洋通教授にご推薦いただき、2024年度の日本小児科学会学術研究賞を受賞させて頂きました。題目は『脳MRI定量解析を用いた脳形態形成の制御機構の解明』です。ヒト、遺伝子改変マウス、剖検脳の脳MRI解析を介して、遺伝子が脳形態にどのような役割を果たすのか個体レベルで解析をしています。診療の合間に行えるので、臨床医にお勧めのテーマです。

この研究テーマは2018年に半年間のお時間を頂き、ポストン小児病棟の脳MRI研究者である高橋恵美先生の元で研究させて頂きました。その時の経験と人間関係が今の研究につながっています。渡米の許可を頂いた下条直樹前教授、快く送り出してくれた藤井克則先生をはじめ小児科の先生方に感謝いたします。縁が研究の道を開きますが、同僚の寛大な気持ちがあっ、初めて縁は繋がります。自分も中継地点の一人になれるように精進していきたいと思ひます。

◀ 2024/4/20 塩濱 直講師
2024日本小児科学会研究奨励賞を受賞！
若手研究者に与えられる名誉ある学術賞です。

災害時死体検案支援活動（能登半島地震）

齋藤 直樹

2024年1月1日16:10に発生した能登半島沖を震源とする最大震度7の地震では多数の死傷者・行方不明者が生じました。石川県警による検案医等の派遣依頼が日本法医学会にあり、災害時検案支援医師を委嘱されました。私は第6次派遣（1/15～1/19、全8次まで）として輪島と珠洲の検案所、輪島の大規模火災現場に赴き、計3体の死体検案及び身元確認業務を行いました。濱田先生をはじめ、小児科医局の皆様は快く送り出してください活動できたこと、この場をお借りして心より感謝申し上げます。



Infographic for hand hygiene campaign. Includes text: 'NICU/GCU', 'NICUに異動', 'GCUに異動', '手指衛生ポスターで小児科・NICU 1位!', '私たちは手指衛生遵守率「90%」を目指します!', '私たちは患者の命を守る活動として手指衛生の知識を広めます!', '私たちはWHO手指衛生キャンペーンの参加施設です!', '子どもたちの未来のために、手指衛生を徹底します!', '私たちは手指衛生遵守率「90%」を目指します! NICUに届け!', '私たちは手指衛生遵守率「90%」を目指します! GCUに届け!', '2024年12月末まで掲示'.

新生児科医師、リーディング大学院参加

飯島 雄太

私は2023年度よりリーディング大学院に参加し、実験免疫学教室で研究を行っています。リーディング大学院は免疫学に関連した「治療学」の推進リーダーを養成するプログラムであり、学生には生活費の補助や研究費が支給されます。新生児分野では児の未熟性に起因する免疫の異常と様々な疾患との関連が知られていますが、詳細は分かっていません。実験免疫学教室ではFate mapping mouseやBone marrow chimera mouseを作成する技術などを用いて、新生児・胎児の免疫システムに関する研究を行っています。写真は先日行われた学術変革領域研究（A）生体防御における自己認識の「功」と「罪」、自己指向性免疫学若手ワークショップ2024での発表の様子です。新生児医療に少しでも貢献できるよう、精進していきます。

医学生の小児科関連活動

第127回日本小児科学会2024/4/21 口演発表（福岡）「小児の睡眠ダイナミクス：非負値テンソル分解を用いた日・日間変動の包括的分析」 小口 真司（医学部6年生）
ビジョン奨学財団奨学生に採用。この資金でカンボジア子ども医療センターに行く：植松君の言「今回は首都プノンペンより車で1時間ほど北上したウドンという街にあるジャパンハート子ども医療センターを訪問させていただきました。見学を通し、主に日本がいかに医療提供の場として整っているか痛感しました。
実際カンボジアでは輸血を受ける際には家族の献血との交換にて可能になるそうで（中略）。改めて日本医療がいかに恵まれているか認識した為、今後医療従事者となっていく際にそれを当たり前だと思わない事を意識して参ります（以後略）
植松 嵩太郎（医学部5年生）

タイ文学賞受賞

緒方プリムマパット（事務補佐）



▲ 緒方仁志先生の奥様で医局事務補佐の緒方プリムマパットさんが2024年9月11日、母国タイの第13回 Chommanard Book Prize を受賞されました！（タイの名誉ある女流文学賞 รางวัลชมเชยคณิศรพิ 13）

日本小児臨床アレルギー学会最優秀演題賞

佐藤 裕範

この度、2024年7月に大阪で開催されました第40回日本小児臨床アレルギー学会の一般口演で最優秀演題賞をいただくことができました。大変光栄に存じます。「千葉県における食物アレルギー診療連携の円滑化と均てん化に向けた新たな取り組み」という演題名で、ここ数年取り組んでいる病院間の食物アレルギー診療連携や、大病院で新たに開設した食物経口負荷試験（OFC）予約専用外来の実態について発表いたしました。OFCを希望する患者層を分析すると、県内の居住地や年齢によってOFCの目的が大きく異なっている事が分かりました。発表後は他県で診療を行う先生からもお声をかけていただき、診療連携の重要性を改めて感じる事ができました。本発表は、診療連携にご協力いただいている多くの先生方のおかげであると感じています。引き続き診療の均てん化に向けた連携の強化と共に、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



新入職者紹介

この春から一緒に働いている大学病院新入職のドクターをご紹介します。

大学院を卒業して3年ぶりに戻ってまいりました。循環器グループの國松です。大学院では遺伝性心疾患と心臓発生学を勉強してきました。専門のことはもちろん、お子さんのことは何でもお聞きください。悩みや不安を一緒に解消していければ幸いです。改めてよろしくお願ひいたします。 國松 将也

今年度より久しぶりに大学病院勤務となりました、平成24年卒の栗原恵理佳と申します。専門は感染症です。前任地は千葉市立海浜病院で、感染症だけでなく様々な一般小児診療に従事しておりました。感染症の治療、感染症にならないための予防など、患者さんとご家族の方が安心して過ごせるよう、お力になれると思います。プライベートでは2人の子育て中で、仕事育児に奮闘しております。よろしくお願ひいたします。 栗原 恵理佳

2024年度に入局いたしました医師6年目の阿部ちひろと申します。東邦大学を卒業後、初期研修を国保旭中央病院、後期研修を松戸市立総合医療センターで行いました。私は学校と医療の連携に興味があり、神経発達症、てんかん、医療的ケア児など、学校とのつながりも多いこと、また扱う疾患が幅広い小児神経学の奥深さに魅せられ、今年から千葉大学で小児神経の勉強をさせていただいています。初めてのことはばかりで、右往左往する日々ですが、先生方の温かいご指導のおかげで毎日充実した日々を過ごせております。今後ともご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願ひいたします。 阿部 ちひろ

医師8年目になります、平田優と申します。一昨年に入局し、千葉大学医学部附属病院で勤務いたしました。昨年は君津中央病院で勤務し、今年再び大病院で勤務しております。内分泌グループで診療をしておりますが、その他の分野も勉強になることばかりで、楽しく仕事をさせていただいております。今年度はアテンディングドクターとして医学生教育に関わる機会もあり、診療以外にも様々な刺激を受けております。今後千葉県の小児医療を支えるべく精進いたします。よろしくお願ひいたします。 平田 優

塩濱病棟長



診療活動紹介



内田外来医長

1班

1班は日野もえ子、奥主朋子、山下喜晴と青木孝浩（免疫細胞医学）で小児血液腫瘍性疾患の診療にあたっています。チームのメンバーに大きな変化はありませんでしたが、初期研修医の先生がコンスタントに回ってくださるようになり活気付いています。脳腫瘍の患者さんが例年より多い3例紹介されました。また、当院3例目となる小児白血病患者へのCAR-T療法を実施しました。一方で、最近患者数が減少しており、他県の医療機関に患者が回されていない心配しております。今後も多くの患者さんに質の高い医療を提供するために、ぜひ多くの患者さんをご紹介いただければ幸いです。（日野）



2班

2班は本年も感染、内分泌、アレルギー免疫の専門グループで構成されています。若手メンバーは入れ替わりりましたが、相変わらず和気あいあいとしています。診療に対するストイックさは例年以上であり、患者の病態理解や治療方針決定にチーム一丸で真摯に取り組んでいます。重症の溶連菌感染症や初発の1型糖尿病をはじめ、炎症性腸疾患や自己免疫性疾患、先天性骨髄不全症など長期入院加療が必要となる児を数多く診療しています。生体肺移植が必要な症例についても、2か月にわたる体外循環管理を経たのちに他施設への転院搬送を無事完了し、命のバトンを繋ぐ事が出来ました。救急・集中治療科や小児外科をはじめ他診療科との風通しは例年通りに良好であり、引き続き質の高い医療の提供に邁進してまいります。また、これまで通りに初期研修医の教育や専攻医獲得のための勧誘活動にも情熱を持って取り組んでいきます。2班、ファイヤー！（山本）



3班

半年でメンバーが入れ替わりしました。4月からは循環器は奥主健太郎先生、葉ゆり先生に加え、大学院を卒業された國松将也先生の3人体制となり、神経班は塩濱直先生、内田、齋藤千尋先生に加え、萩原翔先生と入れ替わりに阿部ちひろ先生が入りました。7月からは葉先生がNICUに異動、NICUから三上裕太先生が加わりました。6月以降ICUに常に受け持ち患者さんがいる状況が続き、研修の先生たち（小出先生、宮本先生、宮田先生、初期研修の龍先生、安藤先生、針谷先生）の力強い働きを支えられて何とかこなしております。ICUでは救血症からの心不全、重症心身障害児の誤嚥、心臓腫瘍に伴う不整脈の新生児、蘇生後脳症、急性脳症、一般病床では、溶連菌感染による胸水貯留（外科に転科して胸膜剥離術を実施）、咽後膿瘍、神経線維腫症1型の脊髄損傷、川崎病の臨床研究例などを多数診療しました。一方で恒例の「3班飲み会」を再開することができ、楽しいひとときを過ごしています。（内田）



N班

2016年に新NICUが開設した時から長らく勤務してくれた岩瀬由紀子先生が君津中央病院NICUに異動となり、2024年度は大曾根、遠藤、三上、吉川に後期研修医の園師先生を加えた5人体制で始まりました。6月からは産科医師の廣岡千草先生が新生児研修として勤務してくれており、私たちにとって産科としての周産期管理について学ぶよい機会になっています。4～6月の入院数はのべ61件、極低出生体重児4例、外科手術4件（幽門狭窄1例、空腸閉鎖1例、十二指腸閉鎖1例、腹壁破裂1例）でした。4月にNICU病棟に迎えた10名近くの新しい看護スタッフが徐々に業務に慣れ、縮小していた病床の再稼働に向けて準備をしています。COVID-19に対応した病院全体の面会制限も緩和され、NICU病棟もCOVID-19パンデミック以前とほぼ同様の面会ができるようになりました。日中は明るくにぎやかに、また夜間にはベッドサイドでそっと児に寄り添う家族の微笑ましい姿が見られ始めたうれしい今年度の始まりです。（遠藤）



ICU

内分班の今田です。濱田教授のご推挙で、今年4月に大学院を卒業後、千葉大学病院のICUに1年間の約束で勤務しております。当院のICUは20床で、成人から新生児まで分け隔てなく受け入れております。成人の体外循環、腎代替療法、多発外傷、気管支鏡等、今まで見てこなかったような症例を日々診療する傍ら、小児の集中治療、周産期管理等も担当しています。今年は例年に比べて小児症例が少し多いようで、4月から7月の4か月間で新生児・小児ECMO2例、重症小児10例、小児術後管理20例など、延べ184日入室がありました。また、救急科のご厚意で小児内分分泌の外出は今まで通り担当させていただきます。引き続き小児内分分泌の研鑽も行ってまいります。まさか自分がこのようなところで働くなど夢にも思っておりませんが、当院ICUは救急科の先生方がとても優しく、ON/OFFがはっきりしていて働きやすい環境で、関係する皆様には大変感謝しております。重症小児症例がありましたら、ぜひご相談ください。



平成23年卒業、卒後14年目の下山恭平と申します。千葉県八千代市在住で、千葉大学医学部を卒業後、東京女子医科大学附属八千代医療センターで初期研修、小児科後期研修を行いました。この間、福岡県の北九州市立八幡病院や秋田県の角館総合病院、東京都立小児総合医療センターでも研修の機会を頂き、小児医療の幅広さや奥深さを数多く経験させて頂きました。その中で、少子化や医師不足、偏在、医師の働き方といった医療における社会的な課題にも触れ、私は医療行政に興味を持ちました。この度、濱田教授のお導きもあり、この4月から母校の千葉大学大学院へ入学させて頂くと共に、厚生労働省で医系技官として医療行政に携わる機会を頂きました。大病院での勤務ができ医局の皆様には大変申し訳ない気持ちですが、頂いたこの貴重な経験を活かし、千葉県の小児医療の発展に尽力する所存ですので、どうかよろしくお願ひ申し上げます。 下山 恭平

4月より小児科でお世話になっております、宮田和也と申します。群馬県出身で秋田大学卒業後、東北大病院で初期研修を行い、今年度より千葉県にて勤務しております。今まで千葉県には縁がなく、入職初日は何もかもが新しい環境に大変緊張していましたが、先生方の暖かいご指導のおかげで公私ともに充実した日々を過ごすことができています。将来的には血液固形腫瘍を専門とし、千葉県の小児医療へ少しでも貢献していければと思っています。学ぶことが多く自身の力不足を感じる毎日ですが、同時に一歩ずつ成長も感じております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。 宮田 和也

今年度より入職いたしました、平成31年卒の小林俊幸と申します。4月より免疫班として勤務させていただいております。大学病院、旭中央病院、君津中央病院で専攻医として研修し、多くの症例を経験させていただきました。おかげさまで9月に小児科専門医試験を受験することができ、緊張しながら結果を待っております。専門班としてはじめて外来や病棟を担当させていただき、日々充実した学びを得ています。来年度は大学院生としてかすさDNA研究所でお世話になる予定です。将来、千葉の小児医療、小児免疫疾患の病態解明などに少しでも貢献できるよう、努力していく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。 小林 俊幸